

自ら問いを立て研究発表する
「8年生プロジェクト」

シュタイナー学校の低学年では、ひとりひとりに何かを発表させることはありません。全員で詩を唱えたり、斉唱劇をしたりします。学年が上がるにつれて少しずつ、劇の台詞を言うようになり、語学の時間の問いかけに一人で答えるようになります。また自分の分担で調べたことを発表したり、行事の後の感想を述べあったりします。楽器の演奏、古代オリンピック、和太鼓、狂言などの発表の経験を経て迎えるのが8年生のプロジェクト発表です。これまでの学びでは、担任に導かれて新しいことがらに出会っていましたが、初めて自分で問いを立て、自分がやりたいこと、知りたいことのための方法から考えます。何ヶ月かの期間をかけて取り組み、必要なら専門的な指導を受けながら、作品や研究をまとめ、そのプロセスや感想、学んだことを保護者や児童生徒の前で発表します。すばらしい作品ができていても、さらにそれを聴く人、見る人と分かち合うためにはどうすればよいのか、そこがまた一つの学びとなります。



contents

- P1 8年生プロジェクト
- P2 [Pickup Report 01]
ー全国高等部交流会
- [Pickup Report 02]
ークリスマスマーケット
- P3 教員インタビュー
保護者インタビュー
- P4 子育てTips
うちのおべんとう
こどもと食べたい季節のレシピ

「人が生きる営み」を
「感じ」「体験し」学ぶ

8年生保護者

8年生プロジェクトはまるで登山のようでした。それぞれが、目指す山やルートを決めて、ひとりひとり歩みを進めるのです。

息子もあれこれ登る山（テーマ）を探して選んだ後、実際に手を動かし色々なアイデアを形にし、使ってみては思ったようにならない事態に直面し、調査、検証、再度チャレンジを繰り返したようです。先生方に引っ張り上げられ、助けられ、クラスメイトと共に取り組むことで発表にこぎつけました。

8年プロジェクトは今までの学習の集大成です。つい、その作品など「成果」、いわば登った山を評価しがちですが、どんな山であっても登山を成し遂げたことを自ら伝え表し、その発表を行うこと自体が社会（発表の会）であたたかく受け入れられる、という「経験」をする教育の場でありました。

私たちは仕事であれ暮らしであれ、答えのない様々なことを自ら選び自らの意思で決めて実際に行う、それを繰り返して、社会の中で生きていく存在です。シュタイナー教育はまさにその「人が生きる営み」を「感じ」「体験し」学ぶものだったことに改めて気付かされました。そして彼らが日々の学びを積み重ねて、確かにそれを身につけてきたことを知る機会となりました。



Pickup Report

01

シュタイナー学校全国高等部交流会

論文指導担当 竹村寧乃

11/2～4の2泊3日、国立淡路青少年交流の家にて、シュタイナー学校全国高等部交流会が行われました。藤野・京田辺・賢治・北海道・愛知・福岡のシュタイナー学校計6校、9～12年生の生徒212人が集まり、初日は各校紹介や歩き手つなぎ鬼等で交流を始めました。

生徒は、写真・映像・釣り・合奏・合唱・ダンス・ゴミ拾い・スポーツ・曲作り・絵・サイクリングといった11種のグループ活動の中からひとつを選び、中日には終日活動に参加し、最終日に作品発表や活動報告を行ないました。また、2日目夜の浜辺でのキャンプファイヤーでは各校(学校によっては各クラス)が合唱を披露したほか、全員で合唱曲「COSMOS」を歌いました。

この交流会は、全国のシュタイナー学校が持ち回りで、生徒が主体となって企画・開催しているもので、今回は京田辺シュタイナー学校の実行委員生徒が運営の中心を担っていました。愛知からは生徒8名が参加し、各グループ・各部屋で他校生徒と交流する中で、普段とは異なる表情を見せる生徒もあり、同世代との交流のための貴重な機会となりました。



Pickup Report

02

おやこで楽しむ Christmas Market 2022

2年生保護者



クリスマスの日を指折り数えて待つアドヴェント。この時期ならではの学園の雰囲気を楽しんでいただけるようにという思いから、今回初めてクリスマスマーケットの開催を試みました。

当日は保護者手作りの学園オリジナルシュトーレンやろうそく立て、高等部手作りリースや手仕事品の販売コーナーも大好評。手作りお菓子や飲み物でホットと一息つける喫茶スペースや談話室では、お客様と教員・保護者との話の輪が広がり、託児スペースは小さなお客様が楽しく遊ぶあたたかな空間に。

アドヴェントの時期ならではの小さなお話のお部屋や蜜蝋ろうそく作りも大人気でした。

クライマックスの保護者と教員によるクリスマスコンサートでは、楽器に初挑戦する保護者も多い中、心をあわせて演奏する姿にたくさんの拍手もいただきました。

初めてのイベントに向けてそれぞれが自分ができることを考え、助け合う中で徐々にハーモニーが生まれ、当日お客様が来てくださることでそのハーモニーが完成する喜びの感覚。多くの皆さまが心を寄せてくださったことに感謝の気持ちが溢れました。



2022年11月26日(土)に開催しました。

教員インタビュー

TEACHER INTERVIEW 03

土屋 知美 先生

4歳から書道教室に通い始め、高校生で師範資格を取得。その後、先生の助手を約6年間勤める。2013年9月より、当学園の書道専科教員として勤務。今年度は3～8年生の授業を担当。現在も学生時代からの同じ先生の教室に通い勉強中です。

ゆったりと
落ち着いて墨を磨る
丁寧に書くことを心がけて

— 土屋先生は4歳から書道を始められて、今も学び続けてらっしゃるのですね。

小学5、6年生のころ、同学年に上手な子がたくさんいたこともあり、毎日、自宅で筆を持っていました。空いた時間を見つけては家族総出で墨を磨ってくれて、瓶に入った墨がいつでも冷蔵庫にありました。好きなことを続けさせてくれた両親には感謝しています。

— 学園の書道授業はどのように行っていますか？

書道の授業は、子どもたちの様子を担任の先生と常に相談しながら導入時期を決め、課題を選んでいきます。例えば、百人一首を習っている時期には硬筆でも百人一首を書いてみたり、毎日唱えている詩を題材にしたりと、日頃の学びと関わりを持たせています。文字の大きさや字数、画数など、一つひとつ段階を踏んでゆけるように工夫しています。学園の授業では墨液は使用せず、いつも磨った墨を使います。良い香りもしますし、ゆったりと落ち着いた時間を持つことができます。



— 授業で大切にされていることは？

トメ、ハネ、払いといった基本的なポイントを繰り返し説明し、実際に書いて見せるようにしています。また、道具を大切にしよう伝えていきます。今のところ消耗品である筆も3～4年間使うことができている。子どもたちは話をよく聞き、私の筆の動きもしっかりと見て一生懸命に取り組んでくれています。私は教える側ですが、逆に勉強させていただいているとも思っています。子どもたちの熱心さに、私も応えたいです。子どもたちには、上手下手よりも、丁寧に書くことを心がけてほしいですね。親御さんにも文字を書くことに関心を持っていただけたら嬉しいです。お子さんが宿題など、字を書いている時には「頑張っているね」と是非褒めてあげてください。ご家庭と学園とで子どもたちの文字の上達に関わっていただければと思います。



保護者インタビュー

parent interview

vol.03

自分と異なる学びに期待 学園は親子がともに育つ場

3・8年生保護者

浅倉秀一さん・敦子さん

秀：秀一さん
敦：敦子さん

— シュタイナー教育との出会いは？

敦：長男の卵アレルギーがきっかけで、岐阜の清流みずほ幼稚園を選びました。そこでシュタイナー教育に出会い、その素晴らしい環境で3年間子どもも育ちました。学びが深まるにつれて、思考・感情・意志の調和を大切に、それらを子どもの成長にふさわしく育むというシュタイナー教育で子ども達を育てたいという想いが強くなりました。しかし、岐阜にはシュタイナー学校がありませんでした。無いからといって簡単に諦めない仲間にも恵まれ、シュタイナー学校を立ち上げる決意をしました。様々な壁を乗り越え、多くの人に助けられて古民家で学校を始めましたが、1年半で閉校する事となり、長男が2年生の3学期から愛知に編入しました。

— シュタイナー学校への進学をどのように考えていましたか？

秀：私は公立の学校に通い、問題集をたくさん購入して、丸暗記中心の勉強をしました。その結果、テストの点は取れても、考える力は身につかなかったように感じます。今は、丸暗記や知識の組み合わせはAIができてしまいます。息子には、勉強だけではなく、幅広い力・応用力を身につけてほしい。自分とは異なる学びで、どんな大人になるのか期待して本校を選びました。

— 入学していかがですか？

秀：高等部の姿を見ると、ここでの学びは将来仕事で活かせると感じています。例えば、8年生プロジェクトではプレゼン力が求められます。先日の12年生劇も圧巻でした。2時間にも及ぶ劇の台詞を覚えるだけでも大変ですが、堂々とした演技と高い表現力に驚きました。

敦：長男は、家の中で困りごとがあるとパバッと何でも手作りしてしまいます。創造力に必要な想像力が育まれたからだと思います。私は、シュタイナー教育を知ってから、どんなことに対しても「何か意味があるのだろう」と考えるようになりました。子どもが何か問題を起こしたときには「この子は私に何を伝えたくてこれをやったのだろう」と自身を省みるようになりました。学園は親子がともに育つ場ですね。



子育て

Tips

工藤 千秋 先生



2009年から10年間韓国のシュタイナー学校で日本語教師を務める。2020年より当学園職員。歯科衛生士。子どもの健康管理全般を担当する。小中等部の韓国語、運動などの授業を受け持つ。幼少期からバレエを始め、いろいろな分野の舞踊、ダンスに関わっている。

【連載】 幼児期の体づくり ② 運動

— 成長過程の運動を大人の都合で端折らないで —

子どもがやろうとする動きには、一つ一つ意味があるんですよ。

例えば歩き始める前の寝返りや、ずり這い、ハイハイなどです。ハイハイをしていると、子どもの全身の筋力（特に腕・胸・首・足・脚・足の指）がついてきますし、床についている手のひらも、木の床、絨毯、畳などの感触の違いを味わっています。

つかみ食いも、乳児にとっては大切なことです。手のひら・指先で掴んだ食べ物の感触、温度などを充分体験した後、フォーク→スプーン→箸と段階を踏んで使っていくことが大切です。

足についても、裸足になって足の指を動かし、足の裏で床をつかんだり、土や砂、川や海の水に触れたりすることで足の裏を刺激します。そうすることで、土踏まずを形成し、健康やかに立つこと、歩くことができるようになります。

このように、手のひらと足の裏の感覚をフルに使うことがとても良い運動になります。これらの経験を充分にしないと、自分の体重を支えるのに必要な力がつかず、転びやすくなります。

お家でできる、ちょっとした遊びを紹介します。家庭環境やお子さんの発育、特性などに合わせておこなってみてくださいね。

皆さんのお子さんは、大きなバスタオルや風呂敷、布団など好きではありませんか？ タオルの上に寝転がせて端を持って揺らしてあげたり（バランス）、ソリのように引っ張ってあげたり（反射）、厚めのタオルや布団を使ってミノムシのように、体にぐるぐる巻いてコロコロ転がしてあげたり（感触・感覚）…。このような単純な動きが子どもにとっては意外と楽しく、こうした小さな運動が体づくりには大きな効果があるんですよ。

大人は、様々な知識や情報、都合によって子どもの成長過程の運動を端折ってしまうことのないようにしたいですね。



うちはうち 教えて 日々のお弁当

うちのおべんとう

「我が家のわくわく弁当」1年生保護者

入 学前、一番の心配事は毎日のお弁当。お弁当作りも苦手だし、朝は嵐のようにバタバタで、朝食もゆっくり食べられないのにどうするの？と思っていました。いざ始まると、彩りや栄養を考えたり、子どもが楽しめるようなお弁当にしないでと、一日中お弁当のことを考える日々。

疲れ果てたある日「今日は、昨日の野菜スープにおにぎりをポチャッと入れて食べる「ポチャットおじや弁当」をお願いします」と息子にお願い。きっと美味しくなくて残してくるだろうと申し訳ない気持ちでお迎えに行くと「ママー、今日のお弁当最高だった！！明日もポチャット弁当にしてー」と。意外過ぎる言葉になんだか肩の力がスーッと抜けて、大人が大事と思っていることよりも子どもの楽しい、美味しいはシンプルなんだと気づきました。

その日から自分が出来る範囲の“無理しないお弁当作り”がスタート。申し訳ないくらいシンプルなお弁当でも「今日ほとんど豚汁弁当。トントンお弁当箱を叩いてから食べてね」と伝えたり、「おにぎりの中にスペシャルな具を入れました、何でしょう？」となぞなぞを出したり。お弁当が息子とのコミュニケーションを生んで「大変なお弁当」が「大切なお弁当」に大変身。ママもお弁当作りは一年生。ゆっくりレベルアップすればいいやと、楽しんでいきます。



学童指導員さん募集



詳しくはWebサイトをご覧ください

- 大人として子どもの前に立つ自覚を持ち、自らも学び成長したいと願う方
- 子どもの育つ環境のために、シュタイナー教育を理解し保護者や教員と共にはたらくことができる方



公開イベント

さつき祭 (仮)

予約不要

2023年5月28日 (日)

ワークショップ・演奏・ノート展示・手作り品販売など、学園の雰囲気を味わっていただけるイベントを予定しています。ちいさなお子さんから大人の方までお気軽にご参加ください。



※イベントの日程・内容等は新型コロナウイルスの感染状況により変更が生じる場合がございます。詳しい開催時間等は公式Webサイトの最新情報をご覧ください。 ※写真はイベントイメージです。

こどもと食べたい 季節のレシピ



おやつにも美味しい

かんたんヌードルラップ

材料 (3人分)

- ・ヌードル (そば・そうめんなど好きなヌードル) —— 80g
- ・彩り野菜 (人参・大根・カイワレなど)
- ・フリルレタス
- ・市販の春巻き皮 (加熱済みのもの)
- ・お塩 —— ひとつまみ
- ・お酢 —— 小さじ2
- ・醤油 —— 小さじ1
- ・ごま油 —— 小さじ1

作り方

- ① お好きな麺を指定の時間茹で、ザルにとって水で締める。
- ② お好きなお野菜を千切りにする。(チキンやお魚をいれても)
- ③ 麺とお野菜を合わせ、調味料で和える。
- ④ 春巻き皮にフリルレタスとヌードルサラダを乗せて巻く。

POINT

- ・春巻き皮を揚げずにそのまま巻くと、トルティーヤみたいな感じになります。
- ・食べる頃には食材の水気が相まってしっとり美味しくなります。
- ・ヌードルは上記の調味料に練り胡麻と豆乳を少し混ぜるとよりクリーミーに。
- ・簡単で楽しく、ボリュームもあるのでおやつにもどうぞ。

3年生保護者 自然食カフェオーナー



Webサイト・SNSで最新情報をご確認ください

隣接したQRコードを紙などで隠して読み取ってください。



公式 Web サイト



オフィシャル ブログ



Instagram



facebook



公式 LINE

ニュースレターについて

愛知県で唯一の全日制シュタイナー学校「愛知シュタイナー学園」による発行です。教員と保護者の協力のもと、執筆からデザインまでおこなっています。子どもたちの学びと教員のまなざし、保護者の想いを四季折々に綴ります。

認定NPO法人 愛知シュタイナー学園 初・中・高等部
〒470-0115 日進市折戸町笠寺山42-13
Tel & Fax: 0561-76-3713
HP: <http://aichi-steiner.org>
E-Mail: aichisteinerschool@nifty.com

アクセス

